

石原都知事の「フランス語は数を勘定できず、国際語として失格」発言 新たに、東京都に対して謝罪広告等請求事件を提訴します

2007年3月19日

原告代表 マリック・ベルカヌ(クラス・ド・フランセ校長)

2004年10月、東京都の新大学「首都大学東京」のサポート組織 The Tokyo-U club 設立総会で石原都知事が行った発言「フランス語は数の勘定もできない」「国際語として失格しているのもむべなるかな」に対して、われわれが最初の提訴をしてから(2005年7月)、約1年半が経過しました。その間、口頭弁論も10回を数え、原告9名が意見陳述を行いました。ところが、昨年10月、結審も間近かと思われた頃、石原氏は、「私人としての発言であり、都の行政とは無関係」という従来の主張を突如として覆し、「あれは公務員たる都知事としての職務を遂行するにあたってなされた発言であった」と言い出しました。このような不誠実な態度には、原告・賛同者一同、呆れ果てていますが、今回、これまでの2倍以上、74名の新・原告団を組み、新たに都知事ならびに東京都に対する国家賠償請求訴訟を提起することにしました。原告団のなかには、フランス、カナダ、ニューカレドニアからの参加者もいて、まさに世界的な広がりを見せています。訴訟の争点はフランス語ですが、この裁判活動をつうじて、あらゆる言語、あらゆる文化を大切にしようとする人々の輪を広げていきたいと考えています。どうぞ、ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

原告 内田 樹(大学教員)

私は日本の文化を愛しており、それを誇りに思っている。けれども、自国のゆたかな文化に誇りをもつことと、他国のそれを侮ることは意味の違うことである。私が石原知事に批判的であるのは、わが国の文化の威信と卓越をもっぱら他国の文化を侮ることによって証明しようとする彼の態度がむしろ日本文化に対する外部評価をいちじるしく損なっているからである。私はフランス文化の名誉のためと同時に、日本文化の名誉のために、彼が国辱的発言を繰り返すことを止めていただきたく、この原告団に参加している。

賛同者 なだいなだ(作家・精神科医)

いうのはまずいと思っていながら、うっかりもらしてしまうのが失言。それに対して、ぜんぜん悪いと思っていないでいうのが暴言です。「数も数えられないようなフランス語には、国際語の資格はない」、こんな暴言を、本人はむしろ格好いいと思っているのでしょうか。自分が少しフランス語を知っているところを見せびらかしたかったのかもしれませんが、調子にのるのはよくないですね。「タヒチの原住民はもっと合理的」とか、「東京都の大学でフランス語を勉強したい人はゼロだ」とか。そんなことより、自分の暴言と間違いに気づいたところで、「しかし、考えてみれば、日本語を含め、ほかの言語だって・・・」、「その点、エスペラントは・・・」などとやっていたら、まだしも人を傷つけず、品格もユーモアもある都知事として評判になっていたかもしれないのに。

最近寄せられたメッセージのなかから・・・

原告 鶴飼 哲(大学教員)

誰に対してであれ、何に対してであれ、侮蔑をあらわにすることで快楽を得ようとする文化のあり方に反対です。フランス語の言語文化も人種差別的な侮蔑と無縁ではありませんが、それに対する大きな抵抗の力も秘められています。本訴訟が石原都知事という個人の偏見を越えて、侮蔑なき世界を求める人々の声を世論に響かせる機会となることを願っています。

原告 寺本成彦(大学教員)

「理」が通りにくいこの国で、「無理」(人権蹂躪に限りなく近い言辞)がその首長の口から吐き出されることのあまりに多いこの首都が、フランスにおける「パリ」と同等の位置にある事実には愕然とする。根拠のまったく欠けたフランス語への讒謗阿諛は、発言者の自己中心的他罰人格およびその知的誠実さの欠如にこそ掃されるものであるのに、それが首都行政の一部をなすと強弁するのなら、事態はもはや座視し得ないものとなったと感じる。フランス語における「石原問題」は、彼の全“業績”のうちの氷山の一角に過ぎないが、まずもってこの「一角」を徹底的批判の俎上にのぼせる必要があると思う。

賛同者 マルグリット・フランス(音楽家)

「しっかりと練られた考えは明晰に表現され得るし、それを言うための言葉も容易に見つかるものだ」と、われらが詩人ボワローは言いました。石原氏の言葉はまったく練られておりません。氏は、話す前に考えるということをしませんし、自分の言葉の責任も引き受けようとしません！！

賛同者 ラウル・オラン(大学教員)

東京のフランス大使館(あるいは他の幾多のフランス語圏の国々の外交部——たとえば、私の出身国のケベックはどうなってしまったのか?)が、東京都知事による、とても正気の沙汰とは思えない、しかも人を傷つける発言に抗して、腰を上げないというのは非常に遺憾なことです。この種の発言には返答の必要さえないなんて、そんな言い分が可能でしょうか？ 皆さん、よく考えてください。これは世界有数の大都市の長による発言なのですよ！！

賛同者 アルベール・サロン(元・フランス大使)

文学博士、元・文化参事官、元・大使、FFI=フランス(国際フランコフォニー・フォーラム)会長、ならびに「フランス語の未来」会長として、私は、あなた方の活動を全面的に支持します。どうぞ、東京のフランス大使 Gildas Le Lidec 氏には、かつてわれわれがカンボジアで行ったフランス語関係の活動の思い出とともに、氏も、あなた方の率先行動を支持する姿勢を示して欲しいという私の願いを届けてください。

賛同者 中野昌宏(大学教員)

当初は「あんなのを相手に裁判なんて、スマートじゃないな」と思っていました(「フランス語学習セット献呈」の方がエスプリが利いていると思ったクチです)、問題となっているのが「公式」の発言です、一般市民として、おかしいことに「おかしい」というのは別に普通のことですから、この運動を支援することにしました。「おかしい」ことをうやむやにすること、シニカルになることは、実は逆に不道德なことです。私たち一人一人は、このフランス語侮蔑発言にも、その他の数々の「公式」非常識発言にもはっきり「NO」と言える日本人であるべきだと思います。

石原都知事のフランス語発言に抗議する会 代表:マリック・ベルカンヌ
事務局 〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 4 番 7 号 クラス・ド・フランセ内
URL : <http://www7a.biglobe.ne.jp/~mcpmt/> E-mail : mcpmt@cpost.plala.or.jp